

# St. Luke's International University Repository

A report from the International workshop about the study findings: 'Design of educational programs for Japanese nurse whose mission is to transfer nursing knowledge in developing countries'.

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2007-12-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 梶井, 文子, 山崎, 好美, 田代, 順子, 堀内, 成子, 平林, 優子, 酒井, 昌子, 菱沼, 典子, 江藤, 宏美, 佐居, 由美, 荒井, 蝶子, 平野, かよ子, 吉野, 八重, 稲岡, 光子, 平賀, 恵子, 山田, 巧, 有森, 直子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10285/475">http://hdl.handle.net/10285/475</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# 「開発途上国における 看護技術移転教育プログラムの開発に関する研究」

## 国際ワークショップ報告

梶井 文子 <sup>1)</sup>	山崎 好美 <sup>2)</sup>	田代 順子 <sup>3)</sup>	堀内 成子 <sup>4)</sup>
平林 優子 <sup>5)</sup>	有森 直子 <sup>6)</sup>	酒井 昌子 <sup>7)</sup>	菱沼 典子 <sup>8)</sup>
江藤 宏美 <sup>9)</sup>	佐居 由美 <sup>10)</sup>	荒井 蝶子 <sup>11)</sup>	平野かよ子 <sup>12)</sup>
吉野 八重 <sup>13)</sup>	稲岡 光子 <sup>14)</sup>	平賀 恵子 <sup>15)</sup>	山田 巧 <sup>16)</sup>
市橋 富子 <sup>17)</sup>	本間 五月 <sup>18)</sup>	二階堂紀子 <sup>19)</sup>	小西 香子 <sup>20)</sup>
鈴木 里美 <sup>21)</sup>	大野 夏代 <sup>22)</sup>		

## A Report from the International Workshop about the Study Findings: 'Design of Educational Programs for Japanese Nurses whose Mission is to Transfer Nursing Knowledge in Developing Countries'

Fumiko KAJII <sup>1)</sup>	Yoshimi YAMAZAKI <sup>2)</sup>	Junko TASHIRO <sup>3)</sup>	Shigeko HORIUCHI <sup>4)</sup>
Yuko HIRABAYASHI <sup>5)</sup>	Naoko ARIMORI <sup>6)</sup>	Masako SAKAI <sup>7)</sup>	Michiko HISHINUMA <sup>8)</sup>
Hiroimi ETO <sup>9)</sup>	Yumi SAKYO <sup>10)</sup>	Chouko ARAI <sup>11)</sup>	Kayoko HIRANO <sup>12)</sup>
Yae YOSHINO <sup>13)</sup>	Mitsuko INAOKA <sup>14)</sup>	Keiko HIRAGA <sup>15)</sup>	Takumi YAMADA <sup>16)</sup>
Tomiko ICHIHASHI <sup>17)</sup>	Satsuki HONMA <sup>18)</sup>	Noriko NIKAIIDOU <sup>19)</sup>	Yoshiko KONISHI <sup>20)</sup>
Satomi SUZUKI <sup>21)</sup>	Natsuyo OHNO <sup>22)</sup>		

### [Abstract]

This article describes the January 24-25, 2004 international workshop proceedings held at St. Luke's College of Nursing. The purpose of the workshop was to share the 2002 and 2003 findings, from the research study titled 'Design of Educational Programs for Japanese Nurses whose Mission is to Transfer Nursing Knowledge in Developing Countries' with three international advisors. The focus

1) ~ 10) 聖路加看護大学 St. Luke's College of Nursing

1) 老人看護学 Gerontological Nursing

2) 8) 形態機能学 Structure and Function of Human Body

3) 7) 地域看護学 Community Health Nursing

4) 6) 9) 母性看護・助産学 Maternal Infant Nursing & Midwifery

5) 小児看護学 Pediatric Nursing

10) 基礎看護学 Fundamental of Nursing

11) 国際医療福祉大学 看護管理 International University of Health and Welfare, Professor, Nursing Administration

12) 国立保健医療科学院 National Institute of Public Health

13) 日本看護協会 Japanese Nursing Association

14) ~ 16) 国立看護大学校 National College of Nursing, Japan

14) 15) 国際看護学 International Nursing

16) 成人看護学 Adult Nursing

17) 国立印刷局東京病院 Tokyo Hospital National Printing Bureau

18) ~ 20) 国際医療センター International Medical Center of Japan

21) 愛知県立看護大学大学院看護学研究科 Aichi Prefectural College of Nursing and Health Master course

22) 埼玉県立大学短期大学部看護学科 基礎看護学 Saitama Prefectural University, Junior College Department of Nursing, Fundamental of Nursing

of the research was to develop graduate, continuing and postgraduate programs in order to prepare those Japanese international nursing collaborators who engage in technical transfer activities in developing countries. Three groups conducted this research. Groups one and two focused on 'Personnel development Program' and 'Basic Nursing Educational Program'. Group three focused on the Process of Technical Transfer. Each of the groups presented their findings and proposed preliminary educational guidelines or educational programs. The members of the workshop provided additional suggestions and ideas for the final year of this study in 2004.

[Key words] international nursing collaboration, developing countries, Japanese nurses,  
 [キーワード] 国際看護コラボレーション, 開発途上国, 日本人看護職,  
 transfer nursing knowledge, educational programs  
 看護技術移転, 教育プログラム

### [抄 録]

国際医療協力委託事業「開発途上国における看護技術移転教育プログラムの開発に関する研究」(平成14年～16年度)における過去2年間の成果を共有し、海外の看護専門家3名から助言を得るため、2日間にわたるワークショップを開催した。研究の目的は、開発途上各国へ日本の看護技術移転活動に関わる人材育成のための教育プログラムを開発することであった。研究は3班で分担され、2つの班は国際看護コラボレーター養成プログラムと、基礎看護教育コラボレーター養成プログラム開発に焦点をおき、1つの班は看護技術移転のための現任教育用のガイドライン(協働基準)の作成を目標に、成果を発表した。研究の最終年度に向けて、このワークショップでの海外看護専門家からの助言と、研究班間のディスカッションから、貴重な示唆を得ることができた。

## I. はじめに

平成14年から、国際看護協力の質の向上を目指し、国際医療で働く日本人看護専門家の教育的体系の整備を図るために、国際医療・看護協力を積極的に進めている機関と連携して、国際医療協力委託事業の「開発途上国における看護技術移転教育プログラムの開発に関する研究」(平成14年～16年度)に取り組んできた。平成15年度に海外の看護専門家を招致し、ワークショップを開催した。本ワークショップでの、海外からの看護専門家の助言は的確で、過去2年間の総括ができた。

本稿は、平成14年・15年度の上記研究の成果、およびワークショップを開催した内容、特に海外の看護専門家の助言を報告する。

## II. 「開発途上国における看護技術移転教育プログラムの開発に関する研究」の概要

### 1. 研究背景と目的

今日の日本の国際看護協力専門家、すなわち看護教育、地域保健等の専門領域において青年海外協力隊よりも高度な技術協力が要求される有償の看護職は、多くの開発途上国で、基礎看護から専門看護領域、学位プログラムまでの教育、看護技術移転あるいは協力・援助活動を行ってきた。青年海外協力隊看護職の派遣状況や研修支援体

制に関する研究は着手されているが、日本の国際看護協力専門家に関する能力開発やその人材養成プログラムに関する研究は十分ではない。さらに、開発途上国における健康問題は、社会・経済的なさまざまな要因により変化しつつある状況の中で、国際看護協力専門家は、開発途上国でより効果的な看護協力を進める上で、国内以上により高度で多様な能力開発を必要とされてきた。しかしながら、国際看護協力専門家としての要請が多くなる一方で、国際看護を科目としておく大学・短期大学も設立されてきているが、その能力開発支援はいまだ十分に提供されているとはいえず、国際看護協力専門家の経験に基づいたデータをもとに、これらの看護協力専門家の能力開発プログラムを準備することが急務であった。

本研究は、看護開発を目指す開発途上各国への日本のさまざまな看護技術移転活動に関わる人材育成のための基礎教育課程から、現任・継続、大学院修士レベルまでの人材養成教育プログラムを開発することを目的としてきた。

### 2. 分担班の研究概要

本研究は、以下の3班から構成されている。1) 国立国際医療センター班(分担研究者一市橋富子)では、開発途上各国での保健医療従事者の人材育成活動に焦点をあて、さまざまな看護技術移転に関わる現任教育用のガ

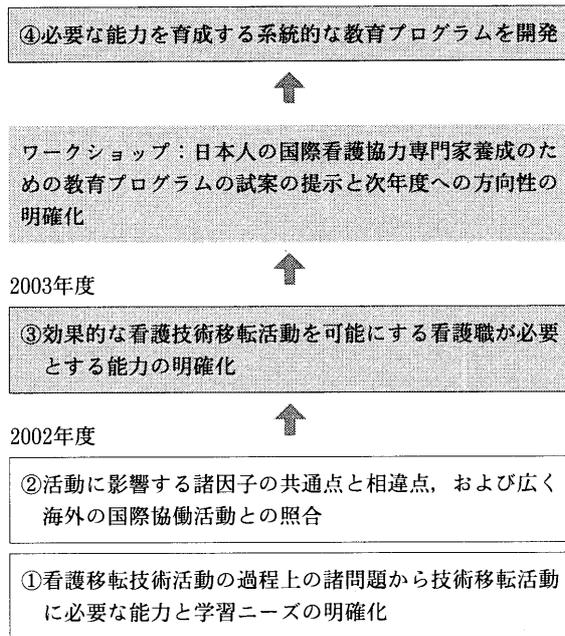


図1 開発途上国における看護技術移転教育プログラム開発の共通過程

イドライン（協働基準）の作成を、2）国立看護大学校班（分担研究者－稲岡光子）では、開発途上国での基礎看護教育コラボレーター継続養成コース開発を、3）聖路加看護大学班（主任研究者－田代順子）では、卒業大学院修士レベルの国際看護コラボレーター養成プログラムのカリキュラムを分担している。

3班に共通する教育プログラムの開発過程は、①看護移転技術活動の過程上の諸問題から技術移転活動に必要な能力と学習ニーズの明確化、②活動に影響する諸因子の共通点と相違点、および広く海外の国際協働活動との照合、③効果的な看護技術移転活動を可能にする看護職が必要とする能力の明確化、④必要な能力を育成する系統的な教育プログラムの開発である（図1）。

### Ⅲ. ワークショップの概要

#### 1. ワークショップの目的

ワークショップにおける目的は、①海外での国際的なグローバルな健康問題への看護職者の取り組みの方策を学ぶ、②2年間の研究成果について国際的な看護専門家からの評価・助言を受け、より妥当なものとする。

これらから、日本の看護技術移転活動に関わる日本人の国際看護協力専門家養成のための教育プログラム（基礎教育課程、現任・継続教育、大学院修士レベルにおけるカリキュラム、教育内容、方法・評価法を含む）のよりよい試案と運営計画への示唆を得ることであった。

#### 2. ワークショップの日時と場所

開催日は、平成16年1月24日（土）25日（日）の2日間

であった。場所は、聖路加看護大学内の講義教室を使用した。

#### 3. ワークショップのプログラム

1日目は各班からの2年間の成果をもとにプレゼンテーションし、その内容に対して各助言者からのコンサルテーションを各々90分で実施した。2日目は、1日目の経過を踏まえてさらに今後に展開するにあたっての示唆や課題を各講師よりレクチャー形式で受講した。

#### 4. ワークショップの参加者

2日間のワークショップの参加者は、国際医療協力委託事業の「開発途上国における看護技術移転教育プログラムの開発に関する研究」内の国立国際医療センター班5名、国立看護大学校班3名、聖路加看護大学班16名（聖路加看護大学10名）の延べ37名であった。

#### 5. 3名の助言者の紹介

##### 1) William Holzemer, PhD, RN, FAAN

William Holzemer氏は、カリフォルニア大学サンフランシスコ校看護学部、地域システム部門長、教授、WHOコラボレーティングセンター・センター長の現職であり、HIV/AIDS患者のQOL向上に関する研究・実践の世界的第一人者である。日本初の聖路加看護大学大学院博士課程の創設に貢献した。

##### 2) Beverly McElmurry, EdD, RN, FAAN

Beverly McElmurry氏は、イリノイ大学シカゴ校看護学部公衆衛生・精神看護・看護管理部門長、教授の現職であり、WHOコラボレーティングセンター・センター長、「グローバルネットワーク」の立ち上げに貢献してきた。

##### 3) Caroline White, PhD, RN

Caroline White氏は、聖路加看護大学客員教授であり、オレゴンヘルスサイエンス大学名誉教授である。専門は、公衆衛生学。パキスタンでの医療ボランティアをはじめ、スウェーデン、デンマーク等海外で幅広い活動を展開してきている。

### Ⅳ. ワークショップの内容

#### 1. 各班のプレゼンテーション&コンサルテーション

##### 1) 聖路加看護大学班

研究テーマは、「国際看護専門師養成プログラムの開発研究」である。国際看護コラボレーターの人材養成のための大学院修士プログラムの開発研究を最終目的としている。

研究段階として、2002年度は開発途上国で国際協働活動を行った日本人看護職者から国際協力活動の能力や継

続学習ニーズに関する調査を行い、この結果から、「国際看護コラボレーター活動モデル」を作成した。2003年度は、「国際看護コラボレーター活動モデル」の洗練のために追加調査を行い、「カリキュラム案」を作成した。

調査対象は、開発途上国において1年以上の国際協力経験のある、あるいは現在1年以上の現地で活動している日本人の看護師・助産師26名であった。調査期間は、2002年、2003年に2回の調査を実施した。調査方法は、半構成的面接法で、「活動に参加した経過」「活動上の困難」「国際看護コラボレーターとして求められる能力」「事前に必要な知識技術」等8項目を内容として、個人およびグループインタビューを行った。インタビュー結果から逐語録を作成し、1ケースについて2名の研究者で内容分析を行った。その上で、全研究者によりカテゴリーについて検討した。さらにコーディングされた内容を再分類し、カテゴリー名を修正し、カテゴリー間の関係を検討して「国際看護コラボレーター活動モデル」を作成した。

「国際看護コラボレーション活動モデル」では、国際看護コラボレーションに求められる能力として、39のカテゴリーが抽出された(表1)。

カテゴリーを分類してみると、国際協働活動の展開に求められる力として「基礎的知識や資質」と、「コラボレーション活動を行っていくプロセスの上で発揮していくことが求められている能力」の2つが構成された。また、後者は、「個人が備えているべき基本的能力」と、「活動を具体的に展開できる能力」に分類された。

基礎的資質・知識に該当するのは9カテゴリーがあった。コラボレーターに共通なカテゴリーは、相手国を理解し、違いを認識しながら違いを受け入れ、その国の中に入って相互関係をつくり、活動していく能力「異文化と折り合う力」であった。個人的能力は、「人間関係をつくりあげる力」「役割認識・使命感」「メンタルヘルスの管理」「決定・主張する能力」であった。

次に活動期別の能力について述べる。

活動準備期から計画期では、コラボレーション展開能力として、「ニーズ分析と計画立案の能力」「効果的な活動を展開してけるための準備を行う能力」「必要なサポート体制を整える能力」が求められた。

活動実施期では、「相手国独自の方式を開発」「マネジメント能力」「課題解決能力」が必要とされた。マネジメント能力は、<人脈づくり><交渉力><企画力><情報入手とその統合力>などが総合して働く能力であった。

評価期では、「効果的な評価を受ける機会を設定」「費用効果査定」「外部評価」が必要とされた。コラボレーター個人の能力として、「成果を形にできる力」「体験をフィードバックしてける力」「ステップアップ」の内

表1 Require competence for Development of International Tasks

Basic Competences & Knowledge
1. Cross-cultural experiences 2. Acceptance of cultural differences 3. Professional experience 4. Degrees & qualifications 5. Philosophy of nursing 6. Language 7. Interdisciplinary knowledge for international cooperation activities 8. Knowledge about own project 9. Knowledge on theories of international cooperation
Personal competences
10. Creating interpersonal relationships 11. Identification of own role & mission 12. Mental health self-care 13. Decisiveness & assertiveness 14. Flexible coping in the actual situation 15. Knowledge & competences on strategies for dealing with health problems in the country of assignment 16. Professional knowledge & competences Nursing administration Nursing education Human resource development
Preparation & Planning phase
17. Creating Collaborative Relationship 18. Organizing project development 19. Setting up the living environment 20. Obtaining financial & administrative support 21. Using preliminary surveys 22. Obtaining support system 23. Obtaining human resources 24. Setting appropriate goals for planning & evaluation 25. Revising goals in response to situation 26. Responding to needs of counterparts 27. Understanding country profile & problems
Implementation phase
28. Management 29. Problem solving 30. Supporting the counterpart's development 31. Autonomy of counterparts 32. Organizing systems 33. Policy making
Evaluation
34. Evaluation 35. Evaluation of cost effectiveness 36. External evaluation 37. Forming outcomes and presentation 38. Developing career 39. Step-up

表2 Proposed Curriculum Content for International Nursing Collaborators

Evidence Derived / Focus Competences	Level
4. Degrees & qualifications 20. Obtaining financial & administrative support 38. Developing career 29. Problem solving 39. Step-up 34. Evaluation 35. Evaluation of cost effectiveness 36. External evaluation 33. Policy making 31. Autonomy of counterparts 8. Knowledge about own project	IV Post graduate
	III Graduate <i>Specialized Course: International Nursing</i>
9. Knowledge on theories of international cooperation 27. Understanding country profile & problems 26. Responding to needs of counterparts 25. Revising goals in response to situation 11. Identification of own role & mission	Introduction to International Health and Nursing
27. Understanding country profile & problems 26. Responding to needs of counterparts 25. Revising goals in response to situation 18. Organizing project development 23. Obtaining human resources 24. Setting appropriate goals for planning & evaluation 21. Using preliminary surveys 19. Setting up the living environment 20. Obtaining financial & administrative support	International Collaboration Process
7. Interdisciplinary knowledge for international cooperation activities 27. Understanding country profile & problems 26. Responding to needs of counterparts 25. Revising goals in response to situation	Seminar for Introduction
27. Understanding country profile & problems 26. Responding to needs of counterparts 25. Revising goals in response to situation 18. Organizing project development 24. Setting appropriate goals for planning & evaluation	Seminar on International Collaboration Process
12. Mental health self-care 11. Identification of own role & mission 8. Knowledge about own project 10. Creating interpersonal relationships 34. Evaluation 35. Evaluation of cost effectiveness 36. External evaluation 15. Knowledge & competences on strategies for dealing with health problems in the country of assignment 28. Management 29. Problem solving 20. Obtaining financial & administrative support 10. Creating collaborative relationships 33. Policy making 31. Autonomy of counterparts 37. Forming outcomes and presentation 38. Developing career 39. Step-up	Integration of Practicum
16. Professional knowledge & competences Nursing administration Nursing education Human resource development 32. Organizing systems 13. Decisiveness & assertiveness 28. Management 5. Philosophy of nursing 7. Interdisciplinary knowledge for international cooperation activities	Non-International Nursing Courses
3. Professional experience 5. Philosophy of nursing	II Post undergraduate
9. Knowledge on theories of international cooperation 6. Language 5. Philosophy of nursing 2. Acceptance of cultural differences 1. Cross-cultural experiences 12. Mental health self-care 16. Professional knowledge & competences Nursing administration Nursing education Human resource development	I Undergraduate

容であった。

全時期を通して、相手国との関係やプロジェクト間の関係、チーム内での関係などさまざまなレベルにおいての活動を展開できるような関係性をつくれる力「関係構築力」が求められた。

次に、「国際看護コラボレーション活動モデル」から導かれた看護カリキュラム案について説明する。各教育過程において、習得が期待される能力のカテゴリーを示した(表2)。

学部教育では、プライマリーヘルスケアなどの国際協力の基礎知識や語学力、異文化と折り合う力・異文化での経験、看護観を確立すること等が求められる。

学部卒業後では、専門領域での実践を通して看護観をより確立していくことが求められる。

大学院教育については、(1)概論：「国際協力の理論」「相手国のニーズを把握していく能力」「役割認識」、(2)概論での基礎知識に基づき、実際に相手国のニーズの分析を試みる演習を学ぶ科目、(3)国際コラボレーション過程：その国および地域のもつ課題への情報収集・アセスメント・計画立案・評価というプロセスを方法論として学ぶ科目、(4)国際コラボレーション過程の演習：実際の特定地域におけるプロジェクトについて、国際コラボレーション過程に沿った分析の試行、(5)統合演習：特定のプロジェクトへの参加から、相手国のニーズ把握、特定課題についての分析から評価までの担当である。さらに大学院修了後は、具体的なプロジェクトに参加し、活動の経済的支援獲得や運用、問題状況への対処、プロジェクトを評価していく能力等が期待される。

以上のプレゼンテーションに対して3名の助言者からのコンサルテーションは以下の通りであった。

国際協力看護職の能力について、学部、大学院、大学院後に分けて概念化されている点は興味深い、プロセスとコンテンツが混ざっているため、能力を別の段階で分析する必要がある。また他の学校のカリキュラムの情報によってカリキュラムを作る必要がある。一つの学校のカリキュラムのモデルよりも、国の一つのモデルを作ると考えたほうがよい。

学部と大学院生のレベルでは違うため、必要とされる能力を計画・実施・評価に分けての分類について、カテゴリー化を再検討する必要がある。それに関連して、調査対象者の評価が能力になるかどうか、評価が能力として分類すべきかどうか考える必要がある。

国際看護のカリキュラム開発に向けては、この研究結果ははじめてであって終わりではない。今後、公衆衛生のプログラムに目を通すことが参考になる。学部に国際看護を入れるという面ではよいが、新しい国際看護の修士課程のプログラムを開発する場合には、これだけでは少ない。国際看護分野での他大学のよいモデルを参考にす

べきである。

## 2) 国立国際医療センター班

研究テーマは「開発途上国における看護職人材育成のガイドライン開発に関する研究」である。本研究の目的は、これまでの活動経験を共有することで、看護職専門家がより効果的に人材育成トレーニングに携わることができ、また、初めて開発途上国でトレーニングにあたる際に効果的に計画や実施ができるようなガイドラインを作成することを目的としている。

研究の背景として、国際医療センター(IMCJ)国際医療協力局派遣協力課の看護職は、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国において、病院管理、看護管理、地域保健、母子保健、リプロダクティブヘルス、感染症プロジェクトに携わり、保健医療従事者育成トレーニング(以下、トレーニング)の実施をし、主に人材育成に関わる。トレーニングを実施している看護職は臨床の実務経験が5年以上で、初めて派遣される際は、開発途上国での活動経験のない職員が大半を占め、その経験は共有されてこなかった、という現状があった。

平成14年度には、トレーニングの活動内容、トレーニングのニーズアセスメント、トレーニングの計画や実施・モニタリング・評価のそれぞれの段階における内容、トレーニング実施上の問題、注意点、教訓となったことを調査内容とし、開発途上国で過去5年間に保健医療従事者育成に従事した日本人看護協力専門家29名を対象とした個別の面接調査と、IMCJの看護職専門家5名を対象としたグループディスカッションを行い、15年度はその調査結果分析から、トレーニングの必要項目をカテゴリー化し、必須項目を抽出し、検証した。

カテゴリー化したトレーニング必要項目は、研修の実施・計画、テクニカルな側面(トレーニングの方法や教材など)、ニーズの調査、モニタリングと評価、マネジメント、ロジスティックスの6項目であり(表3)、カテゴリー化の一例として、トレーニングを実施・計画する際のガイドライン案を示した(表4)。研修を計画、実施するためにはまず、相手国の社会的背景および文化的背景(宗教的背景、社会的背景、習慣的背景、歴史的背景、国民性)を理解することがあげられた。研究班はこのほかの必須項目についても、必要項目の抽出、内容の検証作業を現在進めている。今後は、トレーニングに

表3 Essential components categorized

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• Planning and implementation</li> <li>• Technical aspects (Training methodology, Teaching material)</li> <li>• Needs assessment</li> <li>• Monitoring &amp; evaluation</li> <li>• Management</li> <li>• Logistics</li> </ul> |
|--|

表4 Guidelines (draft) 「Planning and implementation」

Understand social and cultural back ground	Contents
	<p><b>Understanding of target group</b></p> <p>①Religious background</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Difficult to stay overnight outside their house</li> </ul> <p>②Social background</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Grasp line management in training organization (Top down?, Democracy?, Enable bottom up?)</li> <li>• In case of top down, decision certainly inform from top to bottom</li> <li>• Only high rank person make comments in the meeting</li> </ul> <p>③Customary background</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Not accustomed to have training during working time</li> <li>• Tea break, long lunch break at home is needed</li> </ul> <p>④Historical background</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Express opinions on cordiality freely</li> </ul> <p>⑤Nationality</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• High self esteem</li> <li>• Lecturers to be higher position preferred</li> <li>• Unable to make objection to higher</li> </ul>

おける必要項目を更に検証し、ガイドライン案を作成し試行する方針である。

ワークショップの中で、このガイドラインのターゲットがトレーニングを計画する日本人の看護職なのか、日本人の看護職とカウンターパートと共有すべきものか、あるいは各カウンターパートなのか、解釈できる点が混在しており、共通認識が得られていないとの指摘があった。今後の課題として、研究班が当初考えていた日本からの派遣看護職のためのガイドラインは完成していないので作成し、試用した上で、ターゲットを分けるか否かを考える必要があることが確認された。この議論を通して参加者は、複数の研究班が存在すること、そして英語に翻訳したものを背景の違う人たちが共通の理解を得ることにおいて言語は非常に重要であること、一つの言葉で物事を表すのは困難で誤解を招きやすいことを経験した。また、この研究成果の名称を‘ガイドライン’とするのが適当かとの疑問が出され、今後、さらに検討することとなった。

3) 国立看護大学校研究班

研究テーマは「開発途上国における看護基礎教育分野での看護技術移転に携わる人材の養成プログラム開発に関する研究」である。本研究班の研究目的は看護教育分野における国際協力に携わる人に求められる能力を育成するための教育プログラムを開発することであった。

平成14年度、本研究班は、日本の看護教育プロジェクトが実施されていないバングラディッシュの看護教育の現状について情報収集をし、社会、環境、経済、保健医療の状況を明らかにし、加えて、1978年から日本が実施してきた看護教育プロジェクトの閲覧可能な報告書等からプロジェクトの情報収集を行った。

平成15年度は、平成14年度の結果を基盤に、これまで

実施された看護教育分野での国際協力に携わっている看護職者へのインタビューから、活動内容や任務遂行を容易にする要因や困難性を記述した。研究対象は、これまでに開発途上国で実施された看護教育プロジェクトに1年以上携わった看護職者12名である。半構成的面接法で個人へのインタビューを行い面接内容は録音した。任期終了時の報告書、国際協力活動経験者の講演内容もデータとした。

対象者は保健師、助産師、看護師のいずれかの免許を有し、プロジェクトに携わった時の年齢は30代が多く7名、それ以外は20代から60代以上と幅があった。派遣時、3名が看護教育分野での経験がなく、その他は1年から20年以上の経験であった。派遣形態は、ODAが11名、NGOが1名であった。7名の活動は看護基礎教育分野で5名が看護継続教育分野であった。

開発途上国での看護教育分野における国際協力では、現地の調査・分析後に活動計画が立案され、行政への介入、学校運営管理、カリキュラム・教材・実習施設の調整、人材育成に関する活動が行われ、時には直接的教育もされていたことが明らかになった。

そして相手国側の活動に影響をする要因としては、社会情勢・人材不足・社会的地位・教育のありかた等の看護に関することや、宗教・国民性等があり、ここには介入できる部分と介入できない部分があった。

日本側の要因では、事前調査のありかた・専門家の質・人間関係などがあげられた。

そして、看護教育分野における国際協力に携わる人に求められる能力には、看護教育の知識・技術・国際協力の基礎的知識・情報収集能力・問題分析能力・マネジメント能力・コミュニケーション能力・国際協力に対する姿勢があげられていた(表5)。研究班は、今後これら

表5 International Activities and Their Required Competencies in the Area of Nursing Education for Developing Countries

<p><b>Activities and Role Responsibilities in the Area of Nursing Education</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Intervention to the jurisdiction of health and nursing profession</li> <li>• Set up school administration/management</li> <li>• Curriculum development/revision</li> <li>• Creating teaching materials and equipments/rearrangement</li> <li>• Reorganization of clinical sites</li> <li>• Human resources development</li> <li>• Teaching responsibilities for nursing students</li> </ul> <p><b>Factors Influence Activities (Factors Related to the Host Country)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Unstable social conditions (politically, socially, economically)</li> <li>• The viewpoint of the implementing agency of the host country</li> <li>• Nurse shortage</li> <li>• The social status of nursing profession</li> <li>• The present status of Nursing Education and its prospect</li> <li>• Religion</li> <li>• National character</li> </ul> <p><b>Factors Influences Activities (Factors Related to the Donor Country)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• The significance of pre-project survey</li> <li>• Qualification of nursing experts</li> <li>• Human relations among nursing experts</li> </ul> <p><b>Knowledge/Skills/Competencies Required for International Health Care Cooperation in the Area of Nursing Education</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Knowledge/Skills of Nursing education</li> <li>• Fundamental knowledge of International Health Care Cooperation</li> <li>• Information gathering competencies, Problem analysis competencies</li> <li>• Management competencies</li> <li>• Communication competencies</li> <li>• Attitudes toward International Cooperation</li> </ul>
--

の能力を育成するための人材養成プログラムに取り組んでいく予定である。

研究班の所属である国立看護大学校では、今年度初めて、国際看護の単位としての学生実習を途上国へ引率する予定である。大学校ならびに研究班にとっても、学生を海外へ連れて行くことは初の試みであり、助言者からは、前後に学生へ印象の変化等について調査することを勧められた。

## 2. ワークショップからの課題

ワークショップ2日目には、各講師からのレクチャーがあり助言と示唆を得た。まず、3つのグループで言葉遣いについてあわせることが必要であるということが指摘された。受け止める側が違った意味で感じることもあり、特に Nursing とか International, Project という言葉は研究班の間で意味を整理する必要がある。看護については、母子保健や地域保健等の専門看護領域と国際看護に関する情報と知識を整理することによって、国際的な活動にはどのような技能が必要なのかを明らかにする必要性があるとの指摘もあった。

また、カリキュラムの面では、大きく3つの点から検討すべきことと提案があった。

第1点目は能力に関してであった。この能力には4つの大きな側面からさらにアプローチの余地がある；① ‘Global Health’ これは厚生労働省とか世界開発銀行等の知識を得ること、② ‘International Nursing’ これは、ICN や NNA などについてであり、それぞれの国の規制と看護とがどのような関係かを知ることを目指す、③ ‘Living Abroad’ 海外生活に関して、個人の安全性、身体的精神的リスク、お金や住居の心配や文化的な違いについての知識、④データ分析そして研究や調査の方法も含んだ、国際看護協力プログラムの計画と実施と評価に関する能力である。これら4つの側面へのアプローチ法について、たとえば、研究班間で論文にまとめてみると明確になるだろうと提案された。

そして第2点目は、どのような組み立てとするか、専攻とするか副専攻とするかという問題があることであった。修士であれば、例えば ICU 看護や看護管理と国際看護の2つを専攻にするか、または、地域看護を専攻として国際看護を副専攻とするか、ということは検討する必要がある。

第3点目は ‘Site’ 看護師が働く場の問題があげられた。たとえば誰かが派遣されている場所に、修士の学生を数週間派遣するなど、派遣国で働いている看護師をサ

ポートするとともに研修生の教育，経験を目的として，3つのグループで協力してメカニズムを作り上げる可能性を探ることの提案があった。

また，国際的活動における倫理的問題，つまりカウンターパート国と日本人看護職との関係性構築上において，相互の文化的背景の違いを理解することの検討の必要性が指摘された。

さらに，研究班の間の Collaboration（協働）の面から3つの検討課題と提案があった。1つは‘Working Together’一緒に働くということ。2つめはe-Health Support Groupの形成である。これは，例えば今回聖路加看護大学が採択されたCOEのホームページ上などにおいて，国際協力の現場で働く看護職が入ることができ，情報交換や精神的にもサポートされるようなインターネットを通じた場をつくることであった。第3点目の先述の‘Site’看護士の働く場に関して，3班がどのように協力できるのかということ話し合うこと，共通の結果を明らかにすることの重要性が強調された。

## VI. ワークショップ後の本研究の方向性

以上のワークショップで得られた知見などから，各班の平成16年度研究活動の方向が出された。聖路加看護大学研究班は，先進諸国（イギリス，アメリカ）での国際協力に関わる人材育成プログラム調査を行い，日本の国際看護専門職のカリキュラム・教育内容・教材・方法を吟味し，卒前・現任・継続・卒後の系統的な国際看護教育体系の指針を作成することを目標とした。

国立国際医療センター班は，ガイドライン案に含まれる一般的な項目と経験的なことを整理し，普遍的な項目の抽出作業とともに，国や宗教などの違い，プロジェクトの内容や地域または施設でのトレーニング展開の違いなどの具体的な事例を盛り込み内容を検討していく計画

である。より実践的な手引書として国際医療協力を行う看護職専門家に提示していくことを目標としている。

国立看護大学校研究班は，看護基礎教育分野での国際協力に携わる人材養成プログラムの構築することを目標に，次の3点の方向性を打ち出している。まず，開発途上国の看護基礎教育施設をパートナーとして技術協力を実施し，国際看護の基礎教育，継続教育を行っているアメリカ，カナダなどの先進諸国での看護教育の実態を調査すること。次に，これまでの調査結果から看護基礎教育分野での人材養成プログラムのコアカリキュラム，国別の要請プログラムの構築を行う。そして，開発途上国の看護基礎教育分野での国際協力に携わる際の派遣前情報収集の効果的な方法，人材養成プログラムの効果的な活用方法について提言することである。

今年度（平成16年度）は，国際医療協力研究委託事業の最終年にあたる。各研究班にとって，このワークショップはそれぞれの最終目標を定めること，全体としての最終目標を確認する機会となったといえるだろう。

## 参考文献

- 1) 国際看護研究会編. 国際看護学入門. 東京, 医学書院, 1998.
- 2) 久間圭子. 序説国際看護学. 東京, 日本看護協会出版会, 2001.
- 3) 中村安秀編. 国際保健医療のお仕事. 東京, 南山堂, 2003.
- 4) 田代順子, 市橋富子, 稲岡光子. 国際医療協力研究委託費「開発途上国における看護技術移転教育プログラムの開発に関する研究」2002年度研究報告書.
- 5) 田代順子, 市橋富子, 稲岡光子. 国際医療協力研究委託費「開発途上国における看護技術移転教育プログラムの開発に関する研究」2003年度研究報告書.